

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第36回システム安全専門部会議事録

1. 日 時 2016年5月31日 (火) 10:00～11:40

2. 場 所 5 東洋海事ビル A+B 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 岡本部長, 中村副部長, 西村幹事, 青木, 阿部, 上野, 勝村, 鎌田, 北島,
後藤, 中川, 西田, 久宗, 福谷, 巻上, 三村, 宮地, 宮原 (18名)

(欠席委員) (0名)

(委員代理) 堀内知英(関西電力/小野岡代理) (1名)

(委員候補) 有田誠二 (三菱重工業)

(常時参加者) 工藤, 成宮 (2名)

(欠席常時参加者) 河井 (1名)

(オブザーバ) 北島英明 (原子力安全推進協会) (1名)

(事務局) 中越, 谷井 (2名)

4. 配付資料

- STC36-0 第36回システム安全専門部会 議事次第 (案)
- STC36-1 第35回システム安全専門部会 議事録 (案)
- STC36-2 人事について
- STC36-3-1 “原子力発電所の高経年化対策実施基準”の改定案(追補1)の標準委員会決議投票結果
- STC36-3-2 “原子力発電所の高経年化対策実施基準”の改定案(追補1)の標準委員会決議投票での意見対応表
- STC36-4-1 “原子力発電所の高経年化対策実施基準”(2008)別冊の誤記確認結果
- STC36-4-2 正誤表(案)
- STC36-5-1 “標準委員会 専門部会運営通則”の改定案のシステム安全専門部会決議投票結果
- STC36-5-2 “標準委員会 専門部会運営通則”の改定案のシステム安全専門部会決議投票への意見対応
- STC36-6 リスクの活用にかかる標準・技術レポートの制定・改定・廃止にかかる構想(案)
- STC36-7 “原子力発電所の高経年化対策実施基準”の講習会プログラム
- STC36-8 「炉心燃料・熱水力関連標準の改定要否等検討のためのタスクグループ」の検討の進捗について
- STC36-9 2016年秋の大会(9/7-9)企画セッション提案書
- STC36-10 用語辞典への標準委員会コメントへの対応に関する意見募集
- STC36-11 分科会の活動状況について

参考資料

- STC36-参考1 システム安全専門部会委員名簿
- STC36-参考2 標準委員会の活動状況について

5. 議事内容

事務局から開始時, 委員19名中19名が出席しており, 成立に必要な定足数(14名以上)を満

足している旨報告があった。

(1) 前回議事録（案）の確認（STC36-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事（STC36-2）

STC35-2に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下のとおり審議を行った。

1) 専門部会

① 委員退任の確認

山岸 誠（三菱重工業）

② 委員選任の決議

有田 誠二（三菱重工業）

③ 委員再任の決議

宮地 孝政（原子燃料工業）

三村 聡（東芝）

西田 浩二（日立GEニュークリア・エナジー）

久宗 健志（日本原子力発電）

審議の結果、確認、選任又は再任決議された。

2) 分科会

① 委員退任の確認

【PLM分科会】

三好 純二（四国電力）

大城戸 忍（日立GEニュークリア・エナジー）

【SAM分科会】

阿部 弘亨（東京大学）

② 委員選任承認の決議

【PLM分科会】

松村 憲秀（四国電力）

吉成 和博（日立GEニュークリア・エナジー）

【水化学管理分科会】

宇井 淳（電力中央研究所）

審議の結果、確認又は承認決議された。

3. 炉心燃料・熱水力関連標準の改定要否等検討のためのタスクグループ

① 委員退任の確認

西浦 雅詞（三菱重工業）

② 委員選任の確認

福田 龍（三菱重工業）

④ 常時参加者登録の確認

工藤 義朗（原子力規制庁）

越智 仁（原子力規制庁）

中村 良輔（原子燃料工業）

早川 哲敬（東京電力）

西浦 雅詞（MHIニュークリアシステムズ・ソリューションエンジニアリング）

徳永 賢輔（グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン）

武田 直也（関西電力）

審議の結果、確認された。

- (3) 【報告・審議】“原子力発電所の高経年化対策実施基準”の改定案（追補1）の標準委員会決議投票結果について（STC36-3-1, STC36-3-2）
事務局から STC36-3-1 に基づいて，“原子力発電所の高経年化対策実施基準”の改定案（追補 1）の標準委員会決議投票の結果, 可決されたことが報告された後, 引き続き PLM 分科会の中川幹事から STC36-3-2 に基づいて, 決議投票で受付けた意見への対応について報告された。審議の結果, 対応案は編集上の修正であること及び対応案を標準委員会で報告することが決議された。
なお, 意見対応案の水平展開として添付している“原子力発電所の高経年化対策実施基準”2015の正誤表案については, 次の議題の誤記確認結果と同様に, 誤記を重要度分類した上で, 誤記対応案として標準委員会へ報告することとなった。このため, 2015の誤記重要度分類結果を標準委員会までにメールで審議することとなった。（後にメール審議の結果, 重要度分類結果及び正誤表案を標準委員会へ報告することが決議された。）
- (4) 【報告・審議】“原子力発電所の高経年化対策実施基準”（2008）別冊の誤記確認結果と正誤表(案)について（STC36-4-1, STC36-4-2）
PLM 分科会の中川幹事, 松藤委員, 伊藤常時参加者から STC36-4-1, STC36-4-2 に基づいて, “原子力発電所の高経年化対策実施基準”（2008）別冊の誤記確認結果と正誤表(案)とが報告された。審議の結果, 正誤表(案)を承認し, “原子力発電所の高経年化対策実施基準：2011（追補 2）”及び“原子力発電所の高経年化対策実施基準：2015”についての正誤表を学会のインターネットホームページに公表することを標準委員会で報告することが決議された。
- (5) 【報告・審議】“標準委員会 専門部会運営通則”改正案のシステム安全専門部会決議投票結果について（STC36-5-1, STC36-5-2）
事務局から STC36-5-1 に基づいて, 標準委員会 専門部会運営通則”改正案のシステム安全専門部会決議投票の結果, 可決されたことが報告された後, 引き続き STC36-5-2 に基づいて, 決議投票で受付けた意見への対応について報告があり, 審議の結果, 第 4 条第 3 項“代理者は, 投票による議決権を除き, 委員と同じ権限を有する。”を“代理者は, 出席した部会に限り, 委員と同じ権限を有する。”と変更することで, 対応案は承認された。
- (6) 【報告・審議】リスク活用の標準/技術レポートの制改定の構想について（STC36-6）
リスク専門部会の成宮幹事から事務局配付資料の STC36-6 に基づいて, リスク活用の標準/技術レポートの制改定の構想が報告され, 了承された。
質疑等は以下のとおり。
C. PSR+, リスク情報活用, 安全性向上タスク, と議論してきたことをまとめることは重要。リスク専門部会とシステム安全専門部会の協働で行われることは重要。
C. マンレムだけでなく, 環境影響評価を考えてほしい。
A. 検討する。また, 体制だが, この“安全性向上分科会”には設計, 検査, 保全なども含まれるので, 機電メーカーなどにも参画していただくと考えている。L3PRAやPRA品質確保の活動をシステム安全専門部会で紹介することで相互の見解共有を図りたい。
- (7) 【報告】“原子力発電所の高経年化対策実施基準”の講習会プログラムについて（STC36-7）
PLM 分科会の中川幹事から STC36-7 に基づいて, “原子力発電所の高経年化対策実施基準”の講習会プログラムが報告された。
- (8) 【報告】「炉心燃料・熱水力関連標準の改定要否等検討のためのタスクグループ」の検討の進捗について（STC36-8）
炉心燃料・熱水力関連標準の改定要否等検討のためのタスクグループの鈴木幹事から STC36-8 に基づいて, “炉心燃料・熱水力関連標準の改定要否等検討のためのタスクグループ”

ブ”の進捗状況、検討の進め方等が説明され、3つの標準は5年毎の改定要否の決議が遅れていることが報告された。秋頃には大体の方向性を決めたいので、適切に進めるようにとの指示があった。

- (9) 【報告】2016秋の大会企画セッションについて (STC36-9)
事務局から STC36-9 に基づいて、2016 秋の大会企画セッションについて報告された。
- (10) 【報告】用語辞典への標準委員会コメントへの対応に関する意見募集について (STC36-10)
事務局から STC36-10 に基づいて、用語辞典への標準委員会コメントへの対応に関する意見募集について報告された。
- (12) その他 (次回日程等)
次回第37回システム安全専門部会は2016年9月1日 (木) 13:30から開催することとなった。

以 上